

【平成 28 年度第 2/四半期(28.7～9 月)中小企業景況調査報告書】

静岡県商工会連合会（以下商工連）では、県下商工会地区内小規模企業の景気を把握するため、10 商工会の会員事業所に協力依頼し、中小企業景況調査を四半期毎に実施しております。

このたび、平成 28 年度第 2/四半期（28.7～9 月）の調査結果がまとまりましたので報告します。

1 調査概要

調査時点：平成 28 年 9 月 1 日

調査対象業種：製造業、建設業、小売業、サービス業

調査対象：150 事業所（県内 10 商工会 1 商工会 15 事業所）

回答：150 事業所（内訳 製造業：32/32 建設業：21/21 小売業：40/40 サービス業：57/57）

調査方法：所定調査票に基づく商工会の経営指導員によるヒアリング方式

集計方法：業況/売上/仕入単価/採算/資金繰りの質問項目の「好転・増加・上昇」とする数値からそれぞれ「悪化・減少・低下」とする数値を引いた値

2 概要（トピックス）**【全体の業況は悪化、小売業は改善、来期は製造業のみが好転を予測】**

平成 28 年度第 2/四半期（28.7～9 月）の産業全体の業況 DI（景気動向指数）は-20.4（前期-16.3、前年同期-23.0）で前期比 4.1pt 悪化した。小売業の業況が好転し、来期は製造業が好転を予測している。

【製造業】

業況 DI は-22.6（前期-9.1、前年同期-20.6）で前期比 13.5pt 悪化した。

前期と比べ、売上 DI は変動なく、採算 DI は悪化、資金繰り DI は好転した。経営上の問題点としては、「生産設備の不足・老朽化」を挙げる事業所が一番多く、次いで「需要の停滞」、「熟練技術者の確保難」が挙げられた。

【建設業】

業況 DI は 10.0（前期 19.1、前年同期-4.7）で前期比 9.1pt 悪化した。

前期と比べ、完成工事額、採算、資金繰りの各 DI も悪化を示した。経営上の問題点としては、「請負単価の低下、上昇難」、「従業員の確保難」、「官公需要の停滞」、「民間需要の停滞」が挙げられた。

【小売業】

業況 DI は-21.6（前期-27.0、前年同期-21.1）で前期比 5.4pt 好転した。

前期と比べ売上、採算、資金繰りの各 DI は好転した。

経営上の問題点としては、「消費者ニーズの変化」が一番多く、次いで「大型店・中型店の進出による競争の激化」「仕入単価の上昇」が挙げられた。

【サービス業】

業況 DI は-14.0（前期-10.3、前年同期-17.0）と前期比 3.7pt 悪化した。前期と比べ、売上、採算 DI は好転したが、資金繰り、客単価の各 DI については悪化を示した。

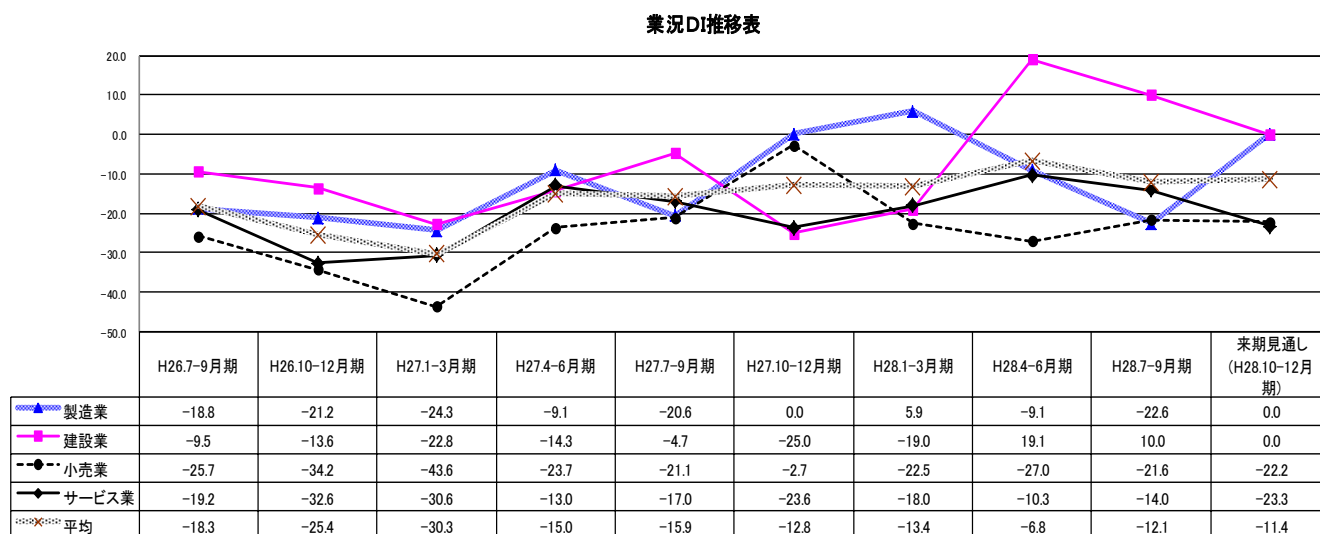
経営上の問題点として、「利用者ニーズの変化」が一番多く、次いで「需要の停滞」、「新規参入業者の増加」が挙げられた。

本調査に関するお問い合わせ

静岡県商工会連合会 経営管理課 電話 054-255-8080 [担当：石川、吉本]

※データ入用の場合はご一報下さい。

(1) 業種別業況 DI 推移表



(2) 各業種売上等に関する項目

製造業

期別／項目別	売上額	採算	資金繰り
H26.7-9 月期	-9.3	-21.9	-12.1
H26.10-12 月期	-18.7	-31.3	-9.0
H27.1-3 月期	-6.1	-15.6	-3.1
H27.4-6 月期	-2.8	-17.6	0.0
H27.7-9 月期	-5.9	-26.4	-12.1
H27.10-12 月期	2.9	-18.1	-5.8
H28.1-3 月期	5.9	0.0	-5.9
H28.4-6 月期	-30.3	-15.1	-31.3
H28.7-9 月期	-30.3	-30.3	-21.9
来期見通し (H28.10-12 月期)	3.0	-15.6	3.1

小売業

期別／項目別	売上額	採算	資金繰り
H26.7-9 月期	-35.9	-37.5	-25.0
H26.10-12 月期	-32.5	-42.5	-10.3
H27.1-3 月期	-48.6	-30.7	-10.2
H27.4-6 月期	-31.5	-25.6	-15.4
H27.7-9 月期	-15.0	-17.5	-5.0
H27.10-12 月期	-12.8	-33.3	-10.2
H28.1-3 月期	-32.5	-22.5	-5.0
H28.4-6 月期	-27.1	-34.3	-18.9
H28.7-9 月期	-22.2	-27.7	-5.5
来期見通し (H28.10-12 月期)	-22.3	-33.3	-2.9

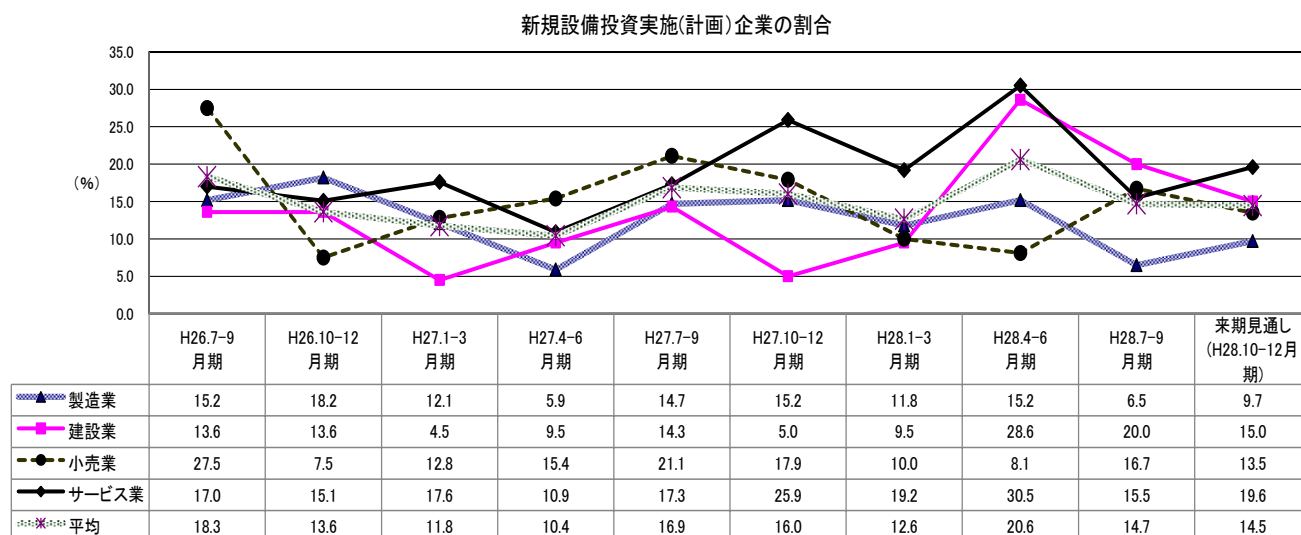
建設業

期別／項目別	完成工事額	採算	資金繰り
H26.7-9 月期	0.0	-19.1	-18.2
H26.10-12 月期	-23.8	-42.9	-19.0
H27.1-3 月期	9.1	-13.6	-13.6
H27.4-6 月期	-33.4	-10.0	-10.0
H27.7-9 月期	0.0	-19.0	-9.5
H27.10-12 月期	-35.0	-38.1	-23.8
H28.1-3 月期	-4.7	-28.5	0.0
H28.4-6 月期	30.0	14.3	9.5
H28.7-9 月期	0.0	0.0	0.0
来期見通し (H28.10-12 月期)	-10.0	0.0	5.0

サービス業

期別／項目別	売上額	採算	資金繰り
H26.7-9 月期	-13.2	-30.7	-5.9
H26.10-12 月期	-32.1	-41.6	-20.8
H27.1-3 月期	-21.6	-33.4	-11.8
H27.4-6 月期	-5.7	-20.0	-7.4
H27.7-9 月期	-20.0	-25.4	-16.6
H27.10-12 月期	-20.0	-29.1	-20.7
H28.1-3 月期	-9.4	-9.6	-28.9
H28.4-6 月期	-20.4	-20.7	-12.0
H28.7-9 月期	-14.0	-15.6	-15.7
来期見通し (H28.10-12 月期)	-17.2	-20.7	-22.4

(3)各業種設備投資に関する項目



◇今期実施した投資

業種	投資内容(多い順)
製造業	生産設備
建設業	OA 機器、建設機械、車両・運搬具
小売業	販売設備、付帯施設、OA 機器、車両・運搬具
サービス業	車両・運搬具、サービス、付帯施設、その他、建物、OA 機器

(4)各業種の経営上の問題点

製造業	1位	生産設備の不足・老朽化
	2位	需要の停滞
	3位	熟練技術者の確保難
建設業	1位	請負単価の低下、上昇難
		従業員の確保難
		官公需要の停滞
		民間需要の停滞
小売業	1位	消費者ニーズの変化
	2位	大型店・中型店の進出による競争の激化
		仕入単価の上昇
サービス業	1位	利用者ニーズの変化
	2位	需要の停滞
	3位	新規参入業者の増加

(5)調査対象事業所のコメント抜粋

業種	地区	コメント(業況判断の背景)
製造業	伊豆	大手の参入により、顧客離れが進んでいる。
製造業	富士駿東	新規産業への進出を計画しており、今後の人材確保・育成が課題となる。
製造業	中部	廻りの状況がかなり悪くなってきており、全体的な意欲を感じられなくなっている。 現在試験中のものが OK なら起死回生となる可能性有り。
製造業	西遠	従前の注文品が、徐々に海外に出ているようで、減少している。

建設業	伊豆	業績は今期の場合、天候による所が大きい為、安定した収益が確保(担保)されない。来期以降においても請負の形態による所が多く安定収益ではない為、設備投資の計画が立たない。
建設業	伊豆	地域の中小工務店が受注難のため、自社保有資格を活かした電気保安業務の下請けで営業を続けている。元請の受注は期待できず建設業者の引き合いも少ない。
建設業	富士駿東	例年だと9月中旬から10月にかけて公共工事が増加するので職人の確保が難しくなると思う。また、9月は予定継続等の支払いがあり、金まわりに忙しくなる月になりそう。
建設業	中部	人材不足の為、受注できない工事がある。

小売業	伊豆	顧客の高齢化による売上額の減少と客単価の低下が最大の不安材料となるので来期の見通しでは減少となるだろう。
小売業	富士駿東	天候不順の影響で、夏商品の出だしが遅く、商品の流れも例年と違っていた。ただ、オリンピックの影響で、テレビは良く売れた。
小売業	中部	品質より価格の風潮が、若い客層に広まり実物を店で確認して、ネットで注文という悪い流れがある。既製品ではない手づくり商品を全面に出して、販売していくしか活路を見い出せない。
小売業	西遠	悪天候による仕入値の上昇など、予測する事が出来ない事が夏、冬に起こり、毎年大変な事が何度かあるようになってきた。対策がないので、小売業でも大変困る。

サービス業	伊豆	現状で後継者はいるが、今後継続して事業を続けられるか心配である。
サービス業	富士駿東	店舗が増えた分、売上も増えているが、利益はさほどで、変わっていない。
サービス業	富士駿東	材料費の見直しを行い、お客様に同額で今以上のサービス提供を行い他社と差をつける必要を感じている。
サービス業	中部	自動車業界の完全な停滞を感じている。新車、中古車ともに動きが見られない。不可収益を考え、基盤収益を固めていく動きを同時に行っていかななくてはならないと考えている。次の消費税増税が非常にこわい。